



収録台本

2022年5月後半号



| TIME | 内容 |
|------|--|
| | オープニングタイトル |
| | <p>田村： お元気ですか！市民のみなさん。麒麟の田村裕です。</p> <p>廣川： 廣川陽子です。 田村さん、3年ぶりにあの「吹田産業フェア」が開催されるんです。</p> <p>田村： おっ！ついに！3年も開きましたか～。</p> <p>廣川： 前はオンラインで開催されましたけど、リアルイベントは3年ぶり。</p> <p>田村： リアルは3年ぶり。すごいじゃないですか、本当にねえ～。</p> <p>廣川： その「吹田産業フェア」ですけど、日程は6月4日（土）と5日（日）、この2日間ですね。場所は「メイシアター」と「いずみの園公園」となっています。久しぶりのリアル開催ということで、楽しみにしてる方も多いんじゃないかな？という感じですね。</p> <p>田村： みんなそれだけを楽しみに生きてますからね。 やっと開催ということで良かったです。</p> <p>廣川： 今年もいろんなイベントが開催されることを祈ってますが。</p> <p>田村： バスケットかスポーツとか、吉本の劇場もそうですけど、ほぼ100%ですね。</p> <p>廣川： 客席は。</p> <p>田村： やってる側も嫌なんですよ。自分の唾飛んだやつ見えるんですよ。 ある程度、声を張るし、漫才中に唾ゼロは無理なんで、</p> <p>廣川： そりゃそうですよ。</p> |

田村：

もともとコロナとかいう前から「今、俺の唾飛んだな。前の人、ごめんなさいね」とか思ったりはしてたんで、届いてはないでしょうけど、軌跡は見えるんで。今はどうなってるか分かりませんが。

廣川：

感染対策はしっかりしながら、リアルイベントも楽しんでいきましょう。ということで、特集です。今回は「吹田の民話」についてです。

田村：

民話だと！？

特集「ききがき吹田の民話」

スパ

様々な歴史、文化が息づく街、吹田市。
ここ吹田には、私たちの暮らしに根付いた民話が多く残っています。
そして吹田市では、昨年から地元の民話を発信する取り組みも始めました。
そんな吹田の民話を・・・、わたくし、スパイシー八木がお伝えいたします！
それじゃあ、早速行ってみよう～

タイトル 《ききがき吹田市の民話》

ナレ

吹田市南高浜町にある、吹田市歴史文化まちづくりセンター、「浜屋敷」。
ここで朗読した吹田の民話を YouTube で配信しています。

スパ

それではここからは浜屋敷の藤本さんにお話を伺っていきたいと思います。
よろしくお願いします。

藤本

よろしくお願いします

スパ

藤本さん、吹田市には古くから伝わる民話がたくさんあると伺ったのですが。

藤本

はい。天平時代(730年ごろ)から明治時代のものまで40篇が民話の中に
収められています。中でも江戸時代のもが多く、作者の阪本一房さんが
吹田市報に連載されていたものを、昭和59年に広報課が冊子にされました。

スパ

その冊子の内容を今、YouTube で公開されているということなんですね？

藤本

当初は、この冊子を増刷して小学生に民話の良さを知ってもらおうと考えて
いましたが、多くの皆様に知っていただきたく方法として YouTube で
配信するような考えになりました。

スパ

朗読ですと字の読めない小さなお子さんでも、楽しめますよね。

藤本

現在、コロナ過で、小学校の給食も黙食とお聞きしております。
その時間に教室で流していただければ、子どもたちも集中して聞くことができるのではないかと考えています。

スパ

なるほど。テレビをご覧の皆さんもちょっと中身が気になると思いますけど、今回は紙芝居の語り部さんにお越しいただきまして、吹田の民話をご紹介しますいきたいと思います。

さあ、お坊ちゃんも、お嬢ちゃんも、お父さんにお母さんも、おじいちゃんもおばあちゃんも寄ってらっしゃい見てらっしゃい聴いてらっしゃい。
これから吹田の民話の読み聞かせが始まるよ。

ということで私、吹田の民話を読み聞かせる語り部のスパイシーおじちゃんだよ。
今日はね、おじちゃんがとっておきのお話を3つ用意してきたから、この窓を見てね。さあ、それではここから始まり始まり～。

ナレーション

天神屋敷。昔むかし、吹田村の神境（しんけい）に橋本清太夫という村の長者が住んでいました。時代は、戦国の世。西の豊臣方と東の徳川方が争っていた時代。静かだった吹田村にも戦のせいで、だいぶ慌ただしくなってきました。
そんなある日の夜更けのこと。吹田の浜にひっそりと一艘の船がついて、神輿が1基降り立つと、しずしずと清太夫さんの宅に入っていました。

スパ

「清太夫さま、えらいことでおます。戦がおこります。
この神輿は、戦に拘わりがおません。町の衆が、お祭りの嬉しさに喜んで担ぐ神輿でおます。清太夫さまは平和な静かなお人柄。戦に拘わりがあろう筈がないとお頼みに参じました。頼んます。神輿を守ってくれなはれ。」
「なるほど」と清太夫さんは戦に拘らんと神輿を守ることに決めやはったそうな。戦がおこって、そんで、戦が済んで、落ち武者が吹田の浜へなだれこみよった。清太夫さんは敵味方なくかくもうたり、怪我の手当てをしてやらはった。
「おおきにありがとさんで」と神輿はまた吹田の浜から船に乗って大阪の天満の天神さんへ戻っていかはったそうな。
今、橋本清太夫さんの邸跡は、どのあたりからどのあたりやったんか、ようわからんにしても、正福寺に今でも「天神境内」ちゅう石碑が残ってるし、そのあたりのことを天神屋敷やちゅうて、神境町の人々の中にちゃんと語り伝えられているちゅうこっちゃ。

はい、おしまい。

藤本

今のお話は、「大坂夏の陣」にまつわるお話で、現在吹田市南高浜町にある「正福寺」のまえあたりに橋本清太夫さんの屋敷があったといわれています。この話と直接関係があるかどうかは分かりませんが、昭和30年代ごろまで天神祭りの時は吹田から50人以上の人が神輿を担ぐ奉仕に行っておられ、吹田と天満の天神さんとはご縁が続いていたのではと考えます。

スパ

では、次のお話を語っていくよ～。こちらをご覧ください。

ナレーション

佐井の清水。

昔むかし、佐井寺の村は、だんだん畑の田んぼが多く、村の者は田んぼに水をやるのに、それはそれは困っていたということでした。

そこで、村中の者が力を合わせて、あっちこっちに池を6つも掘ると、なんとそこへ大雨が降って、6つの池にはなみなみと水が溜まったのでした。これを観た村の者たち。「こんでええ こんでええ」ちゅうて、皆喜んで。ところがどうや。あくる日、池の中、空っぽになっった。

「ありゃあ、どないなってんな」と皆首を傾げよった。

「こらあ、青谷池の竜が水を天へ吸い上げよったんとちゃうやろか」ちゅうて皆青うなりよった。ちょうどその時分、難儀なもんを助けたると、あちこちの国を行脚したはる行基さんがたまたま通らはった。ほんで、その噂を聞かはって、

「そら難儀や。ほな、池が空っぽにならんようにせなあかん」ちゅうて、愛宕山に登り、辺りを見回して祈祷しやはった。ほしたら、それから6つの池に竜が来んようになったそうな。「よっしゃ ええ水出したろ」と行基さん。

愛宕山の麓でトントンと地べたを杖で突かはった。ほしたらなんと、ほんに綺麗な水がこんこんと湧き出よった。喜んだ村の衆、我も我もとその水を浴びたり、顔を洗いよった。ほたらどうや。目えの悪かったもんもいっぺんに治ってしもたんやそうな。「佐井の清水」で目え洗ろたら治った。

そんな噂がばあっと広まった。それからずうっと後になって、都にいたはった板倉の殿さんの耳にまでその噂が届いた。ほんでそのお母さんも目えの病いを佐井寺で治さはったそうな。喜ばはった殿さんは、そのお礼にちゅうてさんでん寺へ梵鐘を寄進しやはったちゅうこっちゃ。

はい、おしまい。

藤本

今のお話は吹田市佐井寺2丁目にある「佐井寺山田寺」にまつわるお話で、佐井寺地区は山間部にあたり、水に苦労されたことと生活用水もあまり綺麗なものではなく、その水で顔を洗ったりすると眼病にかかる人も多かったと思われる。僧行基によって出てきたという清水は綺麗な水であり、それを使うことで眼病も治ったと思われます。

スパ

さあ、いよいよ3つ目最後の話だよ～。それでは始まり始まり～

ナレ

殿池のがたろ

昔むかし、山田かみんじよの殿池には、綺麗な蓮が咲いていたことから、「はすまが池」と呼ばれていました。そのはすまが池では、時たま「がたろ」つまり「河童」が池から顔を出していたこともあったということでした。ある時、田んぼに水をやるために池の樋を開けようとしたら、かみの方の田んぼに先に水がたっぴりと入っていました。これを見た「しもの田」の村の者が。

スパ：

「あ！かみの田に水が入ったある！」「ええっ！なんでや！しもの田から順番に水引くことになってるのに」ちゅうて、しもの田の百姓衆が怒って、かみの田の百姓衆へ怒鳴り込みよった。「よんべ 田へ水引いたやろ！」「あほか そんなことするかい！」ちゅうて、かみの方の田のもんと、しもの方の田の門が喧嘩始めよった。惣代さんが来て「まてまて」ちゅうて喧嘩を止めようとしたけど、水は百姓衆にしてみたら命やさかいどっちも引き下がらんかった。「ほたら毎晩、寝ずの番せえ」ちゅうことになって、かみの田のもんとしもの田のもんが組んで、毎晩交代で水の番を始めよった。月夜の晩やった。2人で回ってたら、なんじゃ黒いもんがゴソゴソ畔を切ってかみの田に水を入れとった。「あっ！こら！」ちゅうて、慌ててそこまでいくと誰もいやらんし、足音もせんかった。「ほらなあ、やっとなるがな」「おかしいなあ。どこの誰やろう？」ちゅうてると、また向こうのほうで黒いもんが畔を切りかけよった。今度は2人ともそおっと草に隠れもって近寄ってみたらなんと「がたろ」やった。「こら！がたろめ！」ちゅうて捕まえようとしたら、もうどこへ行きよったんか、姿が見えなんだ。それからはかみの田のもんも、しもの田のもんも、喧嘩をやめて一緒に「がたろ」の番をしよったちゅうこっちゃ。はい、これで3つのお話お終い。

藤本

このお話は、吹田市藤白台5丁目にある「蓮間が池」に伝わるお話です。山間部のお百姓は水が大切に、昔は水争いがしょっちゅうありました。このお話は架空の動物「がたろ」、河童を登場させて、「がたろ」から水を守るために、みんなが協力して争いをなくすための教訓としたと思われます。

スパ

さあ、いかがでしたでしょうか。こういった地元に昔から伝わる話から、地元の歴史を知るといってもなかなか楽しものではないでしょうかね。是非、皆さんも吹田の民話を見て聴いてそして感じてみて下さいね。

| TIME | 内容 |
|------|---|
| | <p>田村： なるほど。すごいですね。こんな民話が受け継がれてるんですね。</p> <p>廣川： しかも40編もあるって、かなりの量ですよ。</p> <p>田村： すごいじゃないですか。それだけ歴史がある村ってことですよ。</p> <p>廣川： スパイシーさんの語り部姿も似合っていましたね。</p> <p>田村： そうですね。なんかわざわざゲストを呼んでるんやと思って、 今回豪華やなと思ったらね。1人何役もやられてましたけど。</p> <p>廣川： 浜屋敷のYoutubeチャンネルですけども、こちら「浜屋敷通信」と いうんですが、ここでは現在「ききがき吹田の民話」6本を配信している ということですね。</p> <p>田村： 40本のうちの6本が。 じゃあ、これからも続々とアップされていくわけでしょうね。</p> <p>廣川： 予定では、毎月1本のペースで新しいエピソードを配信していくということです。</p> <p>田村： なるほど。すごいですね。</p> <p>廣川： 民話から住んでる街のこともできますし。</p> <p>田村： そういうところを本当に気をつけなきゃいけない、受け継がれるべき、 地域のこういうことが起こる場所やから気をつけましょうね、とかいうのが 受け継がれてたりしますから、すごく重要かもしれませんからね。</p> <p>廣川： 大人も子供も一緒に見たいですね。</p> <p>田村： 無くならないようにしていきたいと思います。</p> |

廣川：
ぜひみなさんも見てみてください。

田村：
スパイシーさんの最後の笑顔、胡散臭かったですね。

廣川：
以上、特集でした。

ワンポイント手話

| TIME | 内容 |
|------|---|
| | ワンポイント手話明け |
| | <p>田村： 続いては、発掘！お元気クイズ～！ （拍手）</p> <p>廣川： このコーナーは、「お元気ですか！市民のみなさん」過去30年間、 1400回以上の放送の中から、今改めて見返したい過去の放送を紹介し、 その中からクイズを出題します。</p> <p>田村： 毎回興味深い、第1回目だったり、前回はメロードがクイズだったり、 楽しいですから、今回も楽しみですけど、今回はどんな内容でしょうか。 「発掘！お元気クイズ！」</p> |

| TIME | 内容 |
|------|---|
| | <p>ナレーション： 発掘！お元気クイズ。 今回振り返るのは、2003年4月11日から放送の特集 「浜屋敷オープン」です。 ちなみに当時の田村さんは24歳。 第1回 M-1 グランプリで大ブレイクを果たした麒麟、 それまでと比べ物にならないくらい大忙し。 しかし、「能ある鷹は爪を隠す」という言葉のとおり、とっておきの 秘密兵器はまだ温存していたのでした。</p> <p>【過去VTR】 改修前の当施設です。 敷地内には母屋と3棟の蔵がありました。 昔の風情を残す建物でしたが、現代の暮らしに合わせ、母屋には洋室に 改装された部屋もありました。 改修工事では母屋は土間の部分にあたる庭から台所を、蔵は内装工事を中心に 行われることになりました。</p> <p>ナレーション： 工事は母屋の内装を取り外す作業から始まりました。 柱や梁はすべて残す大規模なリフォームです。 改修するのは内装だけではありません。 建物の基礎からリフォームするために、建物全体を上げる「あげまえ」という 作業も行われました。 そして浜屋敷のリニューアル工事は完了しました。</p> <p>これから、この施設の中をご紹介しますと思います。 (土間) → (居間) → (大黒柱)</p> |

廣川：

ということで、浜屋敷オープン時の様子をご覧いただきました。

田村：

こうやって改修されたんですね。全部を底上げして、すごいですね。

廣川：

ということで、ここで問題です。

私達は「浜屋敷」と呼んでいるんですが、実は愛称なんですね。

田村：

あっ、そうですか。へえ～。正式名称じゃないねや。

廣川：

では、この浜屋敷の正式名称は？

田村：

え？ざっくりやな。

廣川：

「歴史文化まちづくりセンター」・・・

田村：

それ、俺が言うたらおかしいやろ！

廣川：

なんですが・・・、

田村：

それを言い出したら、どう考えてもやらせでしょ！

なんで知ってるねん、こいつ！ってなるでしょ！

廣川：

ですが、ここからです。

歴史にちなんだあるものを展示しています。それはいったい何でしょう。

田村：

え？あれじゃなくて？僕、知ってるんじゃないですか？あれでしょ？

だから・・・、

廣川：

お！おおっ！

| TIME | 内容 |
|------|---|
| | <p>田村： 碁盤と石でしょ？</p> <p>廣川： それでは正解を見てみましょう。</p> |
| | <p>こちらの建物はだんじり小屋です。 地域の文化財であるだんじりが、交代で展示される予定になっています。</p> <p>ナレーション： ということで、正解は「だんじり」です。 吹田に現存しているだんじりは7台。どれも江戸時代に製作されたもので、 今も動かすことが出来る大変貴重なものなんです。</p> |
| | <p>田村： へえ～！</p> <p>廣川： だんじりです。</p> <p>田村： あの碁石は何？前に見たやつは。</p> <p>廣川： 碁石は??</p> <p>スタッフ： 旧西尾家住宅なので、別のところですよ。</p> <p>田村： 別かい！</p> <p>廣川： 田村さ～ん！</p> |

田村：

そうか、あれ、別か。だんじりといえば岸和田みたいな。
なんとなく吹田からは縁遠いものかと思ってましたけど、あるんですね、7基も。

廣川：

岸和田と違って吹田のだんじりは、わりとゆっくりめに引くそうですね。

田村：

穏やかな。吹田っぽくて良いですね。

廣川：

浜屋敷は来年でオープン20周年ということで、今後いろいろなイベントも
考えられているそうです。

田村：

やっぱりあれだけの苦労があつての歴史的なものですからね。
未長く残して欲しいし、もっと市民の皆さんにも使っていて、
親しみをもってほしいですね。なんて？市民・・・

廣川：

えっと、歴史文化街づくりセンター。

田村：

分かるか！

廣川：

通称、浜屋敷ということですね。

田村：

なるほど。正式名称、分かるか！

廣川：

以上、発掘お元気クイズでした。

| TIME | 映像 | 内容 |
|------|-------|--|
| | トリキリ① | <p><u>＜廣川 ナレーション＞ ※事前収録</u> 会食を行う際は、以下の点に注意し、感染防止対策を徹底してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小人数、短時間で大声は控えましょう ・ゴールドステッカー認証店舗を推奨 ・マスク会食の徹底 |
| | トリキリ② | <p>ワクチン接種の有無に関わらず、3密を避ける、マスクの着用、こまめな手洗い、密閉空間では換気を行うなど、改めて感染対策を徹底してください。</p> <p>発熱や風邪症状がある場合は出勤や外出を控え、かかりつけ医や身近な医療機関に電話で相談してください。</p> |
| | トリキリ③ | <p>新型コロナウイルスワクチン追加接種、いわゆる3回目接種について、</p> <p>ファイザー社製ワクチンの供給の目途がたったため、5月16日（月）から市内医療機関に対してファイザー社製ワクチンの配送を再開しています。</p> <p>そのため、市内個別医療機関でファイザー社製のワクチンが接種できるようになったことから、千里市民センターで実施している集団接種を5月21日（土）で終了することになりましたので、ご注意ください。</p> <p>5月27日（金）、28日（土）はメイシアターでの接種のみとなりますのでご注意ください。</p> <p>4回目接種について、市では4回目接種に向けて接種券の発送準備等を進めているところです。</p> <p>詳細については、市報やホームページなどで順次お知らせします。</p> <p>市コールセンターの電話番号は、フリーダイヤル 0120-210-750 受付時間は午前9時～午後8時まで、土曜・日曜・祝日も対応しています。</p> |

| TIME | 内容 |
|------|---|
| | <p>田村： 続いては市内で行われた出来事などをご紹介します「吹田のトピックス」です。</p> <p>廣川： 今回は博物館の話題です。</p> |

ナレーション・(廣川)

吹田市立博物館では現在、春季特別展「出口座と阪本一房」が開催されています。

出口座は、吹田市出身の阪本一房さんが創設した人形劇団で、1975年から2000年まで吹田市出口町を拠点に活動していました。特別展では、出口座の活動の様子を伝える写真や、そこで使われた人形が展示されているほか、日本や世界の人形劇に関する資料なども展示され、人形劇の魅力を紹介しています。

また、特別展の期間中には様々な関連イベントが実施され、4月30日には元・出口座座員を講師に迎えて「マリオネットづくり」のワークショップがおこなわれました。

ワークショップでは、紙コップを使って人型や動物型のマリオネットを製作。粘土で重心を調整した紙コップに、色紙を貼り付けるなどして顔や胴体、手足などを作り、それぞれのパーツが無理なく動くように糸で繋いでマリオネットを作りました。

参加者は完成したマリオネットを操作して、その動きを楽しんでいました。

(参加者インタビュー)

糸通すのが難しかったんですけども、それは先生方が全部やってくださったんで、楽しいところだけさせてもらいました。

(何か工夫された所とかありますか?)

髭です。この髭です。孫が喜んだらええなあという、ただそれだけですけど。

可愛い女の子ができました。私図書館でいろんなボランティアをしていますので、

いろんな童話をこの子を使って観ていただきたいです。

田村：
へえ～、すごい！

廣川：
楽しそう。

田村：
あれ、なんの生き物やったんでしょうね？お父さんの。

廣川：
髭がポイントっておっしゃってましたね。

田村：
龍か鯉か、なにかわからなかったんですけど。

廣川：
カメラに迫ってくる様子が、またね。

田村：
やけに迫力がありましたね。でも、あんなに作れたら楽しいよね。
子供も暫くあれで遊ぶやろうしね。素敵な試みですね。

廣川：
阪本一房さんの特別展ということだったんですが
今回の特集で紹介した「ききがき吹田の民話」の作者も阪本一房さん。

田村：
あっ、マジですか。へえ～。

廣川：
民話に関連する展示やイベントもあるということですよ。

田村：
じゃあ、全部が繋がってるんですね。あれを見に行って、YouTube見て、
より民話を知ればいいですね。

廣川：
そうですね。こちらの春季特別展「出口座と阪本一房」は、
6月5日（日）まで行われているということです。

田村：
ぜひ行ってみてください。

廣川：
以上、「吹田のトピックス」でした。

田村：
ありがとうございました。ということで、今回の放送はここまでです。
それではまた次回お会いしましょう。さようなら～！